

第 24 回「理学療法ジャーナル賞」授賞式開かれる

入賞に諸澄孝宜氏
 準入賞に赤羽根良和氏
 奨励賞に田中武一氏、岩田研二氏

第 24 回「理学療法ジャーナル賞」授賞式が、4 月 13 日、医学書院会議室にて行われました。理学療法ジャーナル賞は、本誌に 1 年間に掲載された投稿論文の中から優秀論文を編集委員会が顕彰し、理学療法士の研究活動を奨励するものです。2012 年は、総投稿数 102 本のうち 11 本が受賞対象となり、入賞、準入賞、奨励賞 2 本の下記 4 論文が選ばれました。

〔入 賞〕諸澄孝宜、他：内外側大腿骨後顆の厚さが人工膝関節全置換術後屈曲可動域に与える影響(第 46 巻 7 号掲載、原著)

〔準入賞〕赤羽根良和、他：鷺足炎におけるトリガー筋の鑑別検査(46 巻 2 号、報告)

〔奨励賞〕田中武一、他：年齢層別にみた高齢者の歩行速度および歩行変動係数—地域在住高齢者 270 名を対象とした横断研究(46 巻 6 号掲載、報告)

〔奨励賞〕岩田研二、他：在宅脳卒中片麻痺者の排泄動作自立者における下衣操作能力の検討(46 巻 12 号掲載、報告)

* * *

授賞式では、医学書院から賞状・賞金を受賞者に手渡され、続いて編集委員会を代表して横田一彦氏が講評を述べました。

入賞の諸澄論文は、人工膝関節全置換術後患者 96 名 106 膝に対して、大腿骨後顆の厚さが術後屈曲関節可動域に影響を与えるか否かの検証を行った論文です。理学療法介入時の目標可動域予測に有意義であることが評価されての受賞です。準入賞の赤羽根先生は、第 22 回入賞者で、2 回目の受賞となりました。受賞論文は、日常診療で多く認める鷺足炎についてトリガーとなる筋を同定する方法の検証を行った研究です。鷺足炎において注目すべき筋として薄筋を挙げ、運動療法の留意点にまで言及し、臨床現場への貢献度の高さが評価されました。奨励賞の田中論文は、高齢者の歩



左から岩田氏、赤羽根氏、諸澄氏、田中氏

行能力を年齢階層別に単一課題および二重課題条件で検討した論文です。非常に多くの対象者での調査により、年齢層別に高齢者身体機能特性を明らかにしたことが、加齢による運動能力低下を知る資料として意義があり、理学療法介入の参考となることが評価されました。もう 1 つの奨励賞、岩田論文は、脳卒中片麻痺者の排泄動作のうち下衣操作能力を麻痺の程度、バランス、筋力との関係から分析した論文です。理学療法士が排泄動作、更衣動作に着目した研究は少なく、この部分に着目し、困難な研究デザインを構築し検討した点が評価されました。

横田氏は、「いずれの論文も、臨床での気づきをもとに理論や仮説を構築し検証を行った価値のあるものと編集委員一同は考えています。理学療法ジャーナルは、理学療法学へ貢献するものとして、多くの臨床家の今日、明日の診療に役立つ論文を評価していきたいと思っています。そのような観点からも、今回の受賞論文は大いに意義のある研究論文であったと考えます。受賞者の皆さまと私たち編集委員のかかわりは、査読を通して数か月から 1 年強の期間にわたりました。この間の皆様の粘り強い取り組みに改めて敬意を表し、日々の活動にますます励まれることを期待いたします」と受賞者を祝福されました。

* * *

本年も 12 号までに本誌に掲載された論文のなかから第 25 回理学療法ジャーナル賞が選ばれます。皆さまからの活発なご投稿をお待ちしております。